

学びのR

No.23 (令和2年3月)
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

*** 「主体的・対話的で深い学び」で授業改善⑬ *** ～家庭科、技術・家庭科(家庭分野)の学習指導の充実～

* 「主体的・対話的で深い学び」の視点から、家庭科、技術・家庭科(家庭分野)の授業改善を考えます。

今回の学習指導要領の改訂では、家庭科、技術・家庭科(家庭分野)での**資質・能力**の基本的な考え方について、**実践的・体験的な学習**を通して

【知識及び技能】

○家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けさせること

【思考力、判断力、表現力等】

○生活の中から問題を見いだして課題を設定し、それを解決する力を育成すること

【学びに向かう力、人間性等】

○よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成すること

と示されています。【解説(中)「改訂の趣旨及び要点」より】



埼玉県マスコット
「コバトン」

これらの**資質・能力**を育成するためには、

「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ることが求められます。

「生活の営みに係る見方・考え方」とは

生活事象(家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る)を協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

児童生徒や学校の実態に応じ、多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てていくことが重要。



そのための学習過程例(参考) 解説P15(小)、P65(中)参照

生活の課題発見	解決方法の検討と計画		課題解決に向けた実践活動	実践活動の評価・改善		家庭・地域での実践
	生活に関わる知識及び技能を習得し、解決方法を検討する	解決の見通しをもち、計画を立てる		実践した結果を評価する	結果を公表し、改善策を検討する	
既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめ、生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する	生活に関わる知識及び技能を習得し、解決方法を検討する	解決の見通しをもち、計画を立てる	生活に関わる知識及び技能を活用して、調理・製作等の実習や、調査、交流活動などを行う	実践した結果を評価する	結果を公表し、改善策を検討する	改善策を家庭・地域で実践する。

指導計画の作成に当たり、児童生徒の**主体的・対話的で深い学び**の実現を目指した授業改善が求められています。

その際、○「知識及び技能」が習得されること

○「思考力、判断力、表現力等」を育成すること

○「学びに向かう力、人間性等」を涵養すること

が偏りなく実現されるよう、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、授業改善を行うことが重要です。

Q 技術・家庭科（家庭科分野）における「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなもの？

【主体的な学び】

- ・生活や社会の中から問題を見だし課題を設定する。
- ・見直しをもって解決に取り組む。
- ・学習の過程を振り返り、実践を評価・改善する。
- ・新たな課題に主体的に取り組む態度を育む。

【対話的な学び】

- ・他者と対話したり協働したりする中で、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりする。

【深い学び】

- ・一連の学習活動の中で、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する。

Q 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善例は？

H30 南部地区中学校授業研究会より

(2) 展開

学習過程(時間)	生徒の活動	教師の働きかけ	評価と指導 ◇評価規準 【】評価の観点 ◇評価方法 ◎十分満足(状況) →努力を要する生徒への指導の手立て
導入(10)	<ul style="list-style-type: none"> ○着色料が使用されているお菓子和使用されていないお菓子を見て比べ、着色料等に気付く。 ○着色料について知る。 ○食品添加物のメリット・デメリットについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○チョコレートを見せて違いを考えさせる。 ○着色料の効果(見た目をよくする等)を伝える。 ○同じお菓子(チョコレート)の着色料で染めた毛糸を見せ、食品添加物への「不安」(安全性)や「良さ」(品質の向上、保存性など)を考えさせる。 	

見方・考え方を働かせてね



食品添加物のメリット・デメリットについて考えることで、生活の営みに係る見方(本時の場合は特に、健康・快適・安全)・考え方を働かせて、加工食品について考えている。

生活の中から問題を見出すために、2種類のお菓子を比較している。(生徒の生活経験を生かした活動)



〈解決方法の検討と計画〉

食品販売者としてプレゼンテーションを行い、それに対する質問を受け答える活動を通して、適切な食品の選択について考えを深めるよう促している。



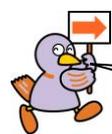
学習課題の提示(2)	学習課題	課題解決のための作業(28)	まとめ(5)	振り返り(5)
	どのようなことに気をつけて、加工食品を選ぶとよいのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ○食品の販売者となり、食品のプレゼンをしよう! A: 温めるだけでできるハンバーグ B: 挽肉に混ぜるだけでできるハンバーグ C: 手作りのハンバーグ ○班で担当した食品(A~C)のプレゼンの内容を各自で考える。 ○班でプレゼンの内容を話し合っって考え、画用紙にまとめる。 ○プレゼンタイム(各班2分+移動30秒) ・自分の班の食品をプレゼンしてまわる。 プレゼン&質問(2分) ×2 ・他の班のプレゼンを聞く ×2 	<ul style="list-style-type: none"> ○食品添加物が含まれる2種類のハンバーグと手作りのハンバーグのそれぞれの良さを生かしたプレゼンを考えさせる。 ○課題(A~C)の補助資料を配付して、プレゼンを行いやすくする。 ○班のメンバーで更に良いプレゼンに仕上げられるよう資料の見方等にも助言する。 ○聞き方についても助言し、それぞれの良さを聞いて、考えを働かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○無添加の良さや食品添加物の大切さにも気付かせ、単に悪者ではないということも示す。 ○身近な加工食品とどのように付き合いたいのか、考えさせる。
			<ul style="list-style-type: none"> ◇食品販売者としての食品のプレゼンテーションをすることを通して、健康や安全の他に、生活スタイルに応じた適切な食品の選択ができるように工夫している。 	

〈生活の課題発見〉
導入を基に、必要感のある課題を設定する。本時のゴールイメージを教師と生徒が共有できるようにする。

解決策を今後の自己の生活と結び付けさせ、生活の営みに係る見方(本時の場合は特に、健康・快適・安全)・考え方を働かせるように促す。

引用・参考

- 「中学校学習指導要領」
- 「小学校学習指導要領解説 家庭科編」
- 「中学校学習指導要領解説 技術・家庭科編」 文部科学省
- 「埼玉県中学校教育課程編成要領」 埼玉県教育委員会



「学びのR」はこちらからも御覧いただけます!

